

弱溶剤二液型フッ素系・シリコン系

**JIS K 5675**

屋根用高日射反射率塗料

2種 2級

マットブラック・提案色を除く

# シャネツロック<sup>®</sup> シリーズ



**ROCK PAINT**

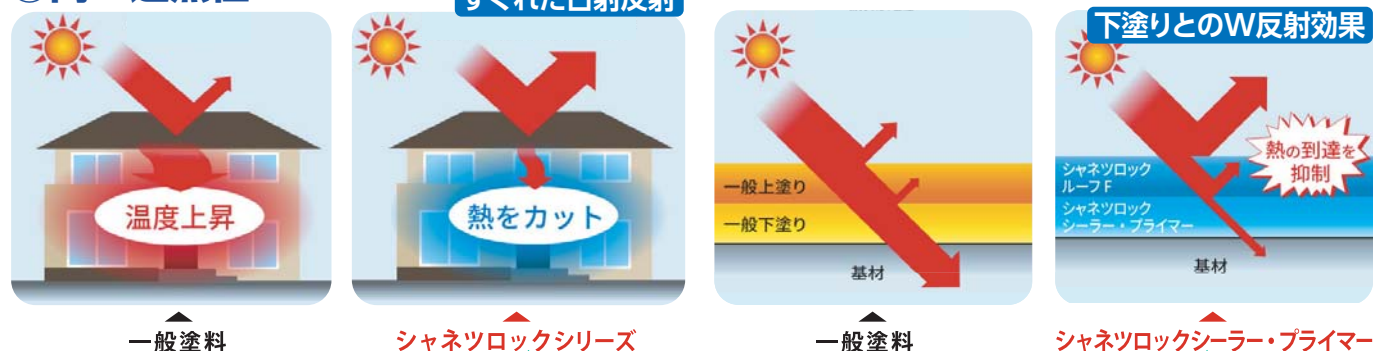


# シャネツロックシリーズ 弱溶剤二液型フッ素系(F)・シリコン系(Si)

シャネツロックシリーズは太陽光中の熱の元となる近赤外線領域を効率的に反射し、暑い日でも屋根面の温度上昇を抑え、快適な居住環境を実現します。また、室内温度上昇を抑制することで夏季冷房消費電力が低減でき、省エネにも貢献します。

## 特長

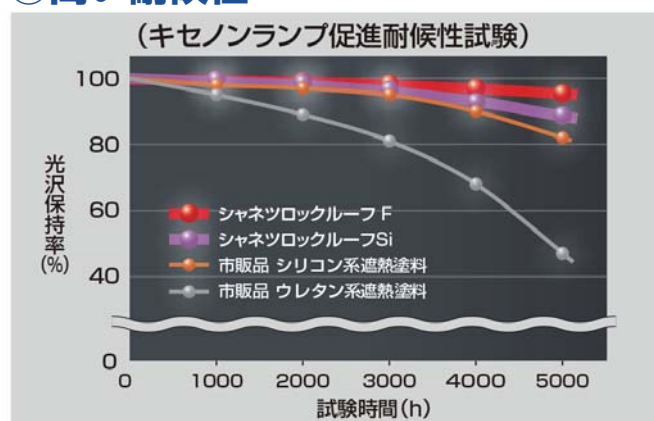
### ①高い遮熱性



太陽から放射される近赤外線領域を効率的に反射し、塗膜表面温度の上昇を抑制、ひいては室内温度上昇と緩和します。

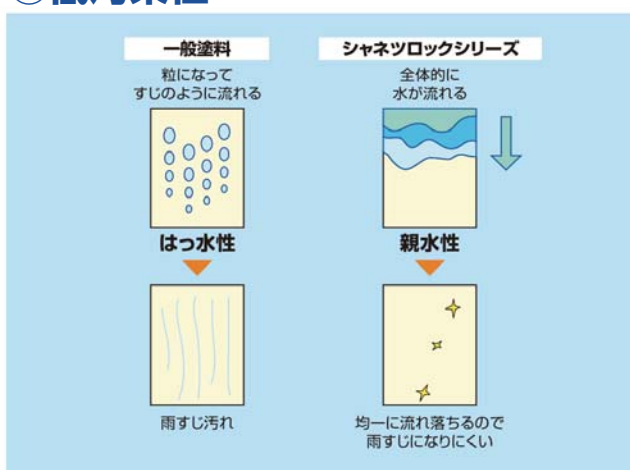
上塗りで十分に反射しきれなかった赤外線は専用のシーラー・プライマーが反射を補い、W反射効果を発揮することで高い遮熱効果を発揮します。

### ②高い耐候性



フッ素樹脂 (シャネツロックルーフF) や特殊三元ハイブリッド型アクリルシリコン樹脂 (シャネツロックルーフSi) の採用により、紫外線 (UV) や風雨、さびなどの劣化因子から塗装面を強力にブロックします。

### ③低汚染性



塗膜硬化後に表面が親水化することにより低汚染性を発揮、そのため遮熱効果の低下を防ぎ、長期遮熱性を維持します。

### ④環境配慮型

鉛・クロムなどの有害な重金属を原料に使用せず、またトルエン・キシレン含有量の少ない弱溶剤タイプの環境配慮型塗料です。

### ⑤マイルドな臭気

非常にマイルドなおいです。

### ⑥防藻・防カビ性

かびや藻類の発生を抑え、清潔な居住環境を維持します。

## 実験棟での温度比較 ～遮熱性～

戸建住宅を想定した実験棟の屋根面に、屋根用高日射反射率塗料と一般屋根用塗料を塗り分けて、夏季におけるそれぞれの屋根表面温度と室内天井部表面温度をサーモグラフィーで測定。その結果、温度低減効果が確認できました。

<引用文献> 理工出版社「塗装技術」2009年4月号

**屋根表面温度<sup>\*1</sup>**  
**約19℃低減(最大)**

\*1・実験棟西面  
・実際の建物の構造などで遮熱性能は異なります。

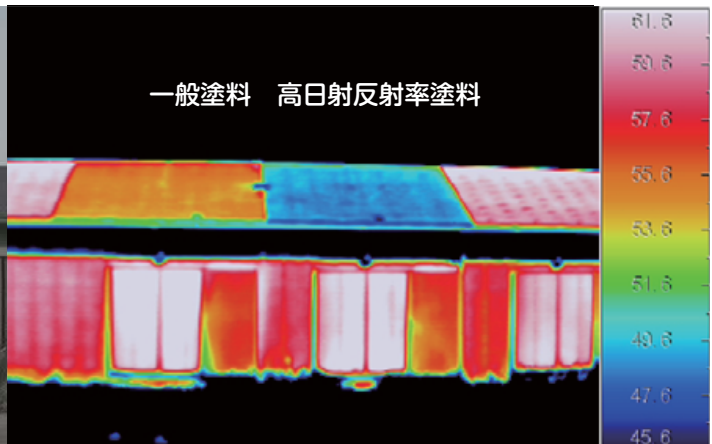
**室内表面温度<sup>\*2</sup>**  
**約2℃低減**

\*2・表面温度  
・実際の建物の構造や窓の開閉などで遮熱性能は異なります。

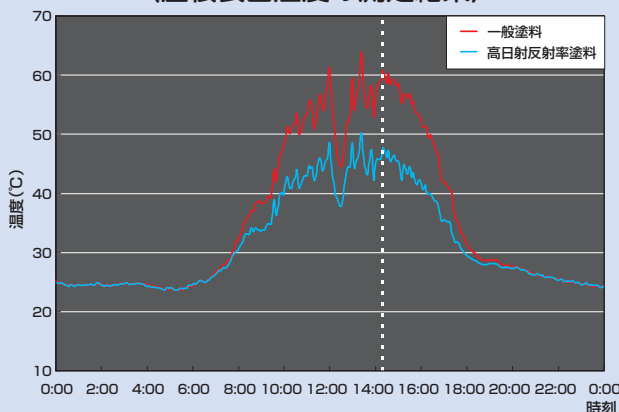
〈実験棟写真〉



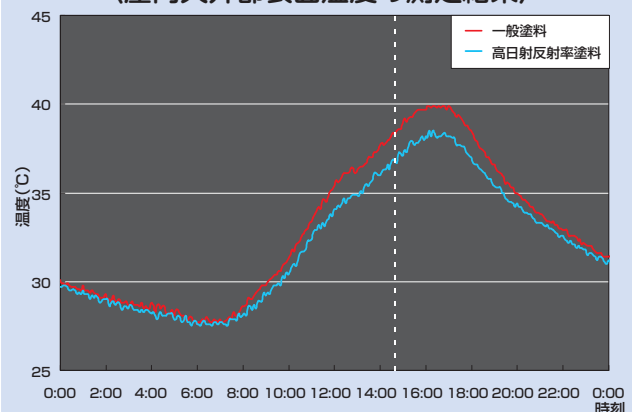
〈左写真の赤外線サーモグラフィー画像〉



〈屋根表面温度の測定結果〉



〈屋内天井部表面温度の測定結果〉



※ 上記に記載された遮熱効果、塗膜性能を表した図やグラフ、数値等は特定の試験の場合における実測値または計算値であり、その効果、性能を保証するものではありません。

（注）建物等における熱遮蔽性については、窓などの開口部による影響が大きく、屋根や壁面などの断熱材だけでは十分な効果が得られない場合があります。より十分な効果を得るために、高断熱性窓ガラスの使用（ペアガラスや真空ガラスなど）や、屋根裏の断熱、床下・屋根などの隙間をできるだけなくすなどの方法を併せてとることをお勧めします。

# 実験棟における消費電力比較～遮熱性～

## 〈実験棟〉



戸建て住宅を想定した実験棟の屋根面に、屋根用高日射反射率塗料と一般屋根用塗料を塗り分け、それぞれの部屋でエアコンを稼働させて夏季と冬季における消費電力量を測定しました。

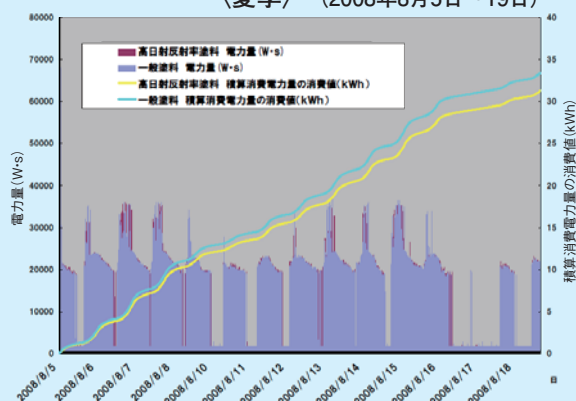
その結果、一般屋根用塗料に比べて屋根用高日射反射率塗料を塗装した部屋では、夏季における消費電力量の低減が認められ、冬季においても消費電力量の差はありませんでした。

### 測定条件

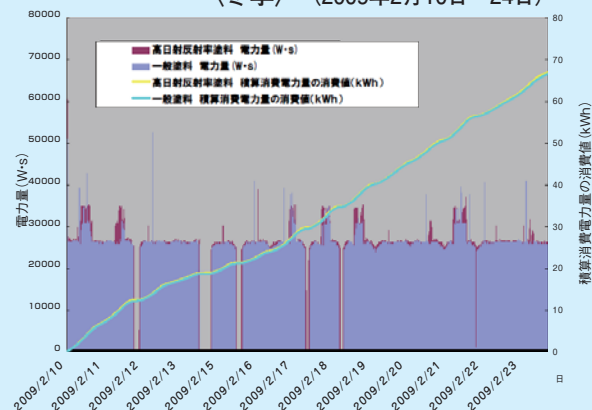
測定時期 2008年夏季・2009年冬季  
場 所 茨城県つくば市内実験施設  
実 験 棟 木造戸建て（1部屋7.7畳）

## 測定データ〔空調稼働時電力量〕

〈夏季〉（2008年8月5日～19日）



〈冬季〉（2009年2月10日～24日）



### 条 件 ・ エアコン機種

ダイキン工業社製 型番S22BTES-W 100V  
冷房・暖房兼用セパレート形（インバーター）  
冷房能力 2.2kW 暖房能力 3.2kW

### ・ 温度条件

夏季：A 棟、B 棟共に28℃に設定  
冬季：A 棟、B 棟共に18℃に設定  
・ 換気 0.5 回／h 第1 種機械換気

### ・ 測定期間

夏季：2008年8月 5日15:00～8月19日15:00  
冬季：2009年2月10日15:00～2月24日15:00

〔引用文献〕日本建築学会大会学術講演梗概集（東北）2009年8月 講演番号1520



# 夏季冷房消費電力※ 7%の低減効果!

※実際の建物の構造などにより、低減効果は異なります。

※ 上記に記載された遮熱効果、塗膜性能を表した図やグラフ、数値等は特定の試験の場合における実測値または計算値であり、その効果、性能を保証するものではありません。



## 製品ラインナップ

工 程	製 品 名	樹 脂 系	色 彩	容 量
上塗り①	シャネツロックルーフSi	弱溶剤二液型アクリルシリコン系	常備色18色 <sup>注)</sup> 提案色 8色	主剤：13.5kg 硬化剤：1.5kg
上塗り②	シャネツロックルーフF	弱溶剤二液型フッ素系	調色対応17色	主剤：13.5kg 硬化剤：1.5kg
シーラー	シャネツロックシーラー	弱溶剤二液型エポキシ系	ホワイト	主剤：12.5kg 硬化剤：2.5kg
さび止め	シャネツロックプライマー	弱溶剤二液型エポキシ系	ホワイト	主剤：14.4kg 硬化剤：1.6kg

注) マットブラックはJIS認証除外です。

## 用 途

コンクリート系屋根、屋根材（セメント瓦、スレート瓦）、住宅用化粧スレート（新屋根材）、金属系屋根（鋼板屋根、トタン屋根等）などの新設および塗り替え

（注）金属系屋根に塗装する場合は、必ず下塗りにシャネツロックプライマー、コンクリート・スレート系には

シャネツロックシーラーを塗装してください。

アスファルトシングル材、陶器瓦、乾式コンクリート瓦（モニエル瓦、スカンジア瓦など）には塗装できません。

## 塗り重ね可能時間・可使時間

製 品 名	塗 り 重 ね 可 能 時 間			可 使 時 間		
	5℃	23℃	30℃	5℃	23℃	30℃
シャネツロックルーフSi/F	4時間以上 7日以内	2時間以上 7日以内	1.5時間以上 7日以内	18時間	7時間	4時間
シャネツロックシーラー	8時間以上 7日以内	4時間以上 7日以内	3時間以上 3日以内	10時間	7時間	4時間
シャネツロックプライマー	8時間以上 7日以内	4時間以上 7日以内	3時間以上 3日以内	7時間	5時間	3時間

注) 塗り重ね可能時間は素地の状態、気象条件、塗装方法などによって多少異なります。

注) 硬化剤を配合した塗料は可使時間内に使い切ってください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

## ① 住宅用化粧スレート（新屋根材）、セメント瓦など

工 程	使用塗料	希釈剤	塗装方法・希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
下地調整	高圧洗浄によりゴミ、汚れ、カビ、こけ、藻などを完全に除去する。 高圧洗浄ができない場合は、ホースで水を流しながらデッキブラシ、金属ワイヤブラシなどを用いて入念に除去する。 また旧塗膜でハガレ部分、フクレ部分がある場合もケレン具を用いて完全に除去する。洗浄後は、素地を十分に乾燥させる。					
下 塗 り	シャネツロックシーラー (主剤:硬化剤=5:1)	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~10 エアレス : 0~10	1	0.10~0.13	4時間以上 7日以内
上 塗 り	シャネツロックルーフSi/F (主剤:硬化剤=9:1)	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 5~15 エアレス : 10~20	2	0.11~0.13	2時間以上 7日以内
縁 切 り	水切り部などで上下の重なり部分が塗料で接着した箇所は縁切りを行う。					

（注）アスファルトシングル材、陶器瓦、乾式コンクリート瓦（モニエル瓦、スカンジア瓦など）には使用できません。

劣化が著しい場合は下塗りに「ロック水性プロテクトルーフ サフ」を使用すると一層仕上がりが均一になります。ただし素地が弱い場合は、剥離の原因となりますので塗装を避けてください。

※シーラーは、「ぬれ感」が出るまでを目安に塗装してください。素地の吸い込みが著しい場合は、その部分を塗り増してください。

上塗りでマットブラックはJIS認証除外色です。

## ② 金属系屋根（鋼板屋根、トタン屋根）など

工 程	使用塗料	希釈剤	塗装方法・希釈率(%)	塗装回数	標準塗付量 (kg/㎡・回)	塗り重ね可能 時間(23℃)
下地調整	電動工具、手工具を併用し、黒皮や赤錆を念入りに除去する。 また、旧塗膜でハガレ部分、フクレ部分等は、ケレン具を用いて完全に除去する。 高圧洗浄等でよく清掃を行い、乾燥した清浄面とする。					
下 塗 り	シャネツロックプライマー (主剤:硬化剤=9:1)	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 0~ 5 エアレス : 5~10	1	0.13~0.15	4時間以上 7日以内
上 塗 り	シャネツロックルーフSi/F (主剤:硬化剤=9:1)	塗料用シンナー	ハケ・ローラー : 5~15 エアレス : 10~20	2	0.11~0.13	2時間以上 7日以内

（備考）標準塗付量は、塗装時のロス考慮に入れた数値です。上記数値は、被塗物の形状・素材・塗装方法などによって多少異なりますので、あらかじめ試し塗りをして確認してください。

※上塗りでマットブラックはJIS認証除外色です。

## 標準常備色

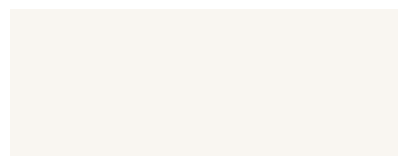
## シャネツロックルーフF・Si



↑ ロイヤルレッド 近赤外日射反射率 57.5%  
全日射反射率 32.1%



↑ \* ライトブルー 近赤外日射反射率 59.9%  
全日射反射率 32.2%



↑ ミラーホワイト 近赤外日射反射率 84.6%  
全日射反射率 78.8%  
推奨色▲



↑ チョコレート 近赤外日射反射率 56.1%  
全日射反射率 29.8%



↑ \* ナイスブルー 近赤外日射反射率 55.0%  
全日射反射率 29.1%



↑ N6 グレー 近赤外日射反射率 81.4%  
全日射反射率 53.4%



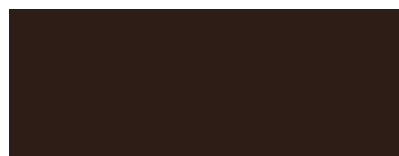
↑ 新ブラウン 近赤外日射反射率 52.7%  
全日射反射率 27.7%



↑ \* ナスコン 近赤外日射反射率 46.3%  
全日射反射率 23.5%



↑ ねずみいろ 近赤外日射反射率 80.1%  
全日射反射率 51.5%



↑ ココアブラウン 近赤外日射反射率 50.4%  
全日射反射率 26.2%



↑ エバーグリーン 近赤外日射反射率 47.5%  
全日射反射率 25.3%



↑ グレー 近赤外日射反射率 75.5%  
全日射反射率 43.4%



↑ ダークブラウン 近赤外日射反射率 53.4%  
全日射反射率 27.1%



↑ \* ニューモスグリーン 近赤外日射反射率 49.0%  
全日射反射率 25.5%



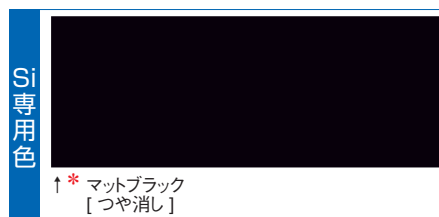
↑ アイアングレー 近赤外日射反射率 50.5%  
全日射反射率 26.3%



↑ \* ノアール 近赤外日射反射率 56.6%  
全日射反射率 28.1%



↑ ルーフブラック 近赤外日射反射率 52.7%  
全日射反射率 26.2%



↑ \* マットブラック  
[つや消し]

Si  
専用色

▲折板屋根（未塗装のガルバリウム鋼板）塗装時の推奨色

\*印の常備色は価格が少し割高となりますのでご了承ください。

●特殊な顔料の使用により、この常備色の色名は、他製品（ハイパーユメロックルーフなど）の同色名と多少異なります。

●掲載の色見本は印刷ですので、実際の色とは多少異なります。色彩については塗り板等で確認してからご注文ください。

また広い面積を塗装する実際の現場施工の場合、色・ツヤが見本帳と異なって見える事があります。

●上記に記載された遮熱性能基準レベル・反射率は特定の試験における実測値または計算値であり、実際の建物に塗った際の遮熱性能に差が出る場合があります。

## 用途

戸建住宅、工場・倉庫など屋根面の新設及び塗り替え

・コンクリート系屋根、屋根材（セメント瓦・スレート瓦）、住宅用化粧スレート（新屋根材）、金属系屋根（鋼板屋根・トタン屋根）など

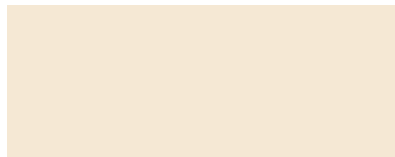
※アスファルトシングル材、陶器瓦、乾式コンクリート瓦（モニエル瓦・スカンジア瓦）には適しません。

## 工場・倉庫向け屋根用提案色

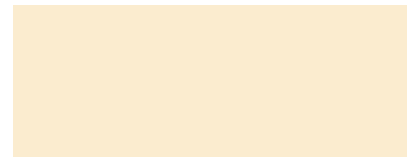
シャネツロックルーフSi【受注生産品】



002 シャビーシックグレイ 近赤外日射反射率 84.6%  
全日射反射率 68.2%  
推奨色▲



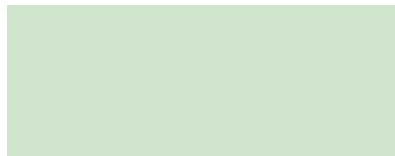
003 バニラブラウン 近赤外日射反射率 85.7%  
全日射反射率 72.7%  
推奨色▲



004 シャンパンエクリュ 近赤外日射反射率 81.5%  
全日射反射率 74.7%  
推奨色▲



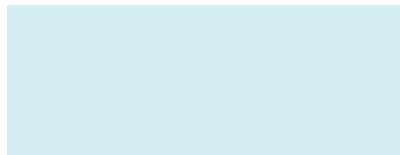
006 フロスティスカイ 近赤外日射反射率 79.9%  
全日射反射率 60.2%



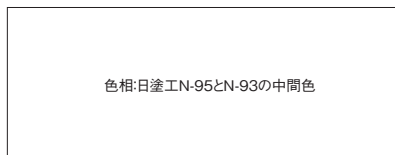
007 スノーパールグリーン 近赤外日射反射率 80.5%  
全日射反射率 64.8%  
推奨色▲



008 シーグラスグリーン 近赤外日射反射率 78.7%  
全日射反射率 58%



005 スプリングアクア 近赤外日射反射率 83.8%  
全日射反射率 71.2%  
推奨色▲



001 ホワイトリリィ 近赤外日射反射率 85.4%  
全日射反射率 86.1%  
推奨色▲

色相:日塗工N-95とN-93の中間色

▲折板屋根（未塗装のガルバリウム鋼板）塗装時の推奨色

## 暑さ・熱中症対策

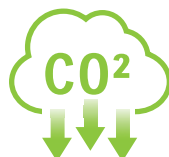
夏場の屋根表面温度は約60℃～80℃まで上昇します

屋根からの熱の侵入は屋内が暑くなる大きな原因になります。  
暑さによる**従業員の作業効率の低下や、熱中症への罹患、電気料金の上昇**などのお悩みを解決するためには、**屋根への遮熱塗装**が有効です



遮熱塗装をして暑さ及び熱中症対策と屋根の維持メンテナンスを同時に行えます

従業員の作業環境を改善できます。  
夏季の冷房電力消費量低減により省エネやCO<sup>2</sup>排出量削減の効果も期待できます。





# 施工上の注意事項

- 塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、枯葉などの汚れや、はがれかかった塗膜はよく取り除いてください。
- 気温が低いときや湿度が高い場合には、完全な塗膜ができにくく十分な性能を発揮できませんので、気温 5℃以下、湿度 85%以上のでの塗装は避けてください。
- 絶えず結露が発生するような場所、用途での使用は避けてください。
- 塗料全体をよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。特に吹付け塗装の場合は注意してください。
- 補修部分が目立つことがありますので、補修塗りの場合は同一ロットの塗料を使用し、同一の塗装方法、希釈割合で行ってください。
- 塗装方法により多少色相が異なることがありますので、入り隅のハケ・ローラー境目はできるだけ奥までローラー塗装してください。
- 作業能率の低下および塗りムラの原因になるため、スプレーノズルの先端は時々洗浄してください。
- 硬化剤は必ず専用硬化剤を使用してください。他の硬化剤を使用すると仕上がり外観、塗膜性能に悪影響を及ぼします。
- 硬化剤を配合した塗料は、時間の経過と共に増粘・固化して使用できなくなります。配合した塗料は可使時間内に使い切ってください。
- 夏場の高温時は硬化反応が著しく速まるため、塗り重ね間隔はあまり日数を置かず速やかに実施してください。上塗りとの付着性が低下します。
- 塗料液を硬化剤には、湿気と反応する成分が含まれています。貯蔵の際は密栓し冷暗所に保存してください。また、開栓後はできるだけ早めにご使用ください。水・アルコール系の溶剤の混入は絶対に避けてください。
- 硬化剤はイソシアネート化合物を含んでおり、スプレーダストを吸引すると鼻、のど、気管支などに障害を起こすおそれがありますので、換気を良くし、適切なマスクを着用して作業を行ってください。過去にアレルギー症状を経験している人は取扱いをしないでください。
- 金属面の塗装にはシャネツロックプライマーを下塗りしてから塗装してください。
- セメント系素材の塗装にはシャネツロックシーラーを下塗りしてから塗装してください。
- 降雨、降雪、強風などの場合、または天候不良が予測されるときは外部の塗装を避けてください。
- シーリング材の上に塗装する場合、シーリング材の種類、劣化度により付着不良、収縮われなどを起こしたり、表面が汚れたりすることがあります。状況によっては、シーリング材用プライマー「ロックノンタックプライマー S」を塗装してください。塗膜の汚染・剥離・はがれ・割れの低減が図れますが、シーリング材の種類によっては汚れ、付着不良が発生する場合がありますので試し塗りをすることをお奨めします。なお、ノンブリードタイプのシーリング材に「ロックノンタックプライマー S」は塗装しないでください。
- エルシオンパテの外部での使用は避けてください。
- 吸い込みの著しい部材については、標準塗分量より多くなる場合があります。シーラー塗装は「ぬれ感が出るまで」を目安に塗装してください。
- シーラー塗装後、塗装仕様の塗り重ね可能時間よりも早く上塗り塗装を行うと、ちぢみ、ひび割れ、塗膜不良を起こすおそれがありますので、塗り重ね可能時間は守ってください。
- 下塗り乾燥後、素地との付着性をガムテープなどで確認し、はがれが認められる場合は再度下塗り塗装を実施してください。
- サビについては完全に除去後、削りカス(サビ、鉄くず)を完全に除去してください。サビの発生の原因となります。
- トタンや折り曲げ部分、継ぎ目部分などは、膜厚が得られない場合がありますので、サビ止め塗料は先に拾い塗りすることをお奨めします。
- 亜鉛メッキ鋼板の目付量が多い場合には、3〜4か月屋外放置しペーパー掛け後塗装してください。
- シーラー類や各種上塗り塗料には防錆性がありませんので、金属製の部分が錆びている場合、錆などを除去、ケレンし、適性のあるサビ止め塗料を下塗り後、上塗り塗装を実施してください。
- 溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので、素地調整後、適性のあるサビ止め塗料で補修塗装を行ってから下塗り塗装してください。
- 素地が濡れている時は塗装を避け、乾いてから塗ってください。また、素地が直射日光などで極端に熱くなっている時は、少し冷えてから塗装してください。
- 乾燥過程で霜、夜露などの影響を受ける時間帯や、昼と夜の温度差が大きい時期は、結露による曇りけし現象が起こる場合がありますので、時間を考慮して塗装を行ってください。
- 塗装時は、高い所から降り口を確保しながら塗装してください。塗りたての面は滑りやすいので絶対に乗らないでください。塗り残しがあった場合も乾燥後に補修塗りをしてください。
- 作業時の安全には十分注意し、高所で作業する場合は安全ロープをかけて行ってください。

- 新屋根材などで軽度の不陸がある場合は、下地調整材としてロック水性プロテクトルーフサブを使用してください。
- 無機系、フッ素系などで処理した住宅用化粧スレート(新屋根材)には、下塗りにハイパーシーラーエポを塗装してください。
- セメント系瓦の場合、塗装後に水切り部で瓦の重なり合った部分に塗料が付着していると漏水の原因となります。必ず皮スキなどを使用し塗料の除去、縁切りを行ってください。
- 新屋根材の改修塗装で弱溶剤型のシーラーを使用した場合、旧塗膜の種類によっては溶剤の影響により、ふくれ、ちぢみなどが発生することがありますので、試し塗りをしたうえで本塗装を行ってください。
- 塗り替えした塗膜は以前の塗膜と比較して、光沢、平滑性が向上し一般的に滑りやすい傾向にあります。塗装後の屋根上での作業には十分に注意してください。
- 冬期においては、屋根上の雪が滑りやすくなることが想定されます。安全確認を行い、屋根に滑り止めなどの付帯設備を設置するなど対策をとることをお奨めします。
- 露出している瓦の素地が脆弱な場合は、剥離の原因となりますので塗装しないでください。(瓦の張り替えをお奨めします。)
- 陶器瓦、アスファルトシングル材、乾式コンクリート瓦(モニエル瓦、スキャンジア瓦など)には適していません。
- 低温時(10℃以下)の塗装では、硬化剤との反応が遅くなるため、硬化前の降雨、結露などにより塗膜不良を生じる場合があります。
- 塗装作業中および乾燥中は換気を十分行い、その後も塗膜が完全に乾くまでの間は、ときどき換気を行ってください。
- 改修塗装の場合、素地の種類や下地処理方法によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い試し塗りをすることをお奨めします。
- 改修塗装の場合、脆弱な旧塗膜、汚れ、チョーキングなどはディスクサンダー、皮スキ、ワイヤーブラシなどで除去し、高圧洗浄を行った後、24 時間以上乾燥させてください。(気温 23℃、湿度 65%の場合)
- 仕様書の数値は標準的な塗装を行う際のもので、標準塗分量は塗装時のロスを考慮に入れた数値です。素地の状態、気象条件、塗装方法などによって異なる場合があります。
- 塗り重ね可能時間(乾燥時間)は塗装現場の温度、湿度、風通し、素地の状態などにより、多少変わります。
- 各工程の塗装間隔や塗分量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となる事があります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- カタログに記載されていない素地及び塗装方法、工程で施工する場合、塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所へお問い合わせください。
- 低汚染性については被塗物の種類や建物の形状により、また、施工後特に塗膜が十分に乾燥する前、もしくは乾燥して初期の段階で天候不良であった場合、その効果が十分に発揮されない場合があります。
- 防藻・防カビ効果は繁殖を抑制するため、既に発生している被塗面には、下地処理として除去および防藻・防カビ処理剤などで殺菌処理した後、塗装してください。
- 建物の形状、既設断熱材の施工方法によっては、期待できる遮熱効果が得られない場合があります。高日射反射率塗料は適材適所にて使用することをお奨めします。
- 建物等における遮熱・断熱性については、窓などの開口部による影響が大きく、壁面等の遮熱付与材のみでは十分な効果が得られない場合があります。より効果を得るために高断熱性窓ガラスの使用(ペアガラスや真空ガラスなど)や、屋根裏、床下などの隙間をできるだけなくすなどの対策を併せてとることをお奨めします。
- 遮熱塗料は特殊な顔料の物性により、一般塗料と比較して塗料の表面に特定の色が浮きやすい傾向にあります。十分に攪拌し使用してください。また塗装後、塗料の溜まった部分や垂れた部分などに色分かれが発生する場合がありますので、塗装時に注意してください。
- 遮熱塗料は特殊な顔料を使用しているため、塗分量が不足すると見た目の色相が変化したり、素地、下地を十分に隠蔽できなかつたりすることがあり、遮熱性能を十分発揮されない場合があります。必ず標準塗装仕様の記載事項を守ってください。
- 遮熱塗料は経年による変退色の傾向が一般塗料と異なりますが、遮熱性能に影響はありません。
- このカタログに記載されている下塗り塗料などの詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。
- 取扱いの際は製品容器の注意書き、製品カタログおよび安全データシート(SDS)をよく読み、注意事項を厳守してください。

# 安全衛生上及び取扱上の注意

- 【製品の危険・有害性】
- 引火性の液体である。
- 溶剤蒸気を吸入すると有機溶剤中毒になるおそれがある。
- 目、皮膚、粘膜等に対し刺激性がある。

- 【救急処置】
- 目に入った場合は直ちに多量の水で洗い、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけはやく医師の診察を受けてください。
- 蒸気・ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化のあるときは医師の診察を受けてください。

- 【取扱注意事項】
- 取扱は引火源のないところでを行い特に静電気が発生するような衣服、取扱は避けてください。
- 取扱作業所には、局所排気装置を設け、塗装時及び乾燥時には十分換気を行ってください。
- 溶剤蒸気やスプレーダストを吸引しないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクなどの適切な保護具を着用してください。

- できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護めがね、保護手袋(耐溶剤性)、長袖作業着等を着用してください。
- 取扱後は手洗い及びうがいを十分に行い、作業着等に付着した汚れをよく落としてください。
- よくふたをして直射日光を避け、5℃以上 40℃以下の安全でかつ子どもの手の届かない一定の場所に保管してください。
- 容器は中身を使い切ったから廃棄してください。
- 指定された以外の製品と混合しないでください。
- 廃棄の際は関係法規に従って産業廃棄物処理業者に委託し処理してください。
- 火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を用いてください。

- 【施工後の安全性について】
- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引き渡しの際は、施主に対して安全性に十分に注意を払うようご指導ください。
- 不特定多数の方が利用する施設を施工した場合は、ペンキ塗りたてであるなどの立看板を設置し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにご配慮願います。
- 安全データシート(SDS)をよく読んでから取り扱ってください。

## ロックペイント株式会社

東京営業部 〒136-0076 東京都江東区南砂2-37-2  
TEL (03) 3640-6000 FAX (03) 3640-9000

札幌営業所 〒003-0011 札幌市白石区中央一条4-3-48  
TEL (011) 812-2761 FAX (011) 812-9304

仙台営業所 〒983-0044 仙台市宮城野区宮代2-3-11 凌正ビル201  
TEL (022) 349-8677 FAX (022) 283-3255

西関東営業所 〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本1-15-16  
TEL (042) 700-3111 FAX (042) 700-3112

大阪営業部 〒555-0033 大阪市西淀川区姫島3-1-47  
TEL (06) 6473-1650 FAX (06) 6473-1000

名古屋営業所 〒454-0059 名古屋市中区福川町1-1  
TEL (052) 351-6500 FAX (052) 361-7433

岡山営業所 〒701-1134 岡山市北区三和1000-34  
TEL (086) 294-1201 FAX (086) 294-6966

福岡営業所 〒811-0119 福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜3-2-1  
TEL (092) 962-0661 FAX (092) 963-1241

URL <https://www.rockpaint.co.jp>

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。  
また記載内容について、法律で認められる範囲を超えての転載・複製を禁止します。

## 販売店